

ヒダサンショウウオ

Hynobius kimurae Dunn

有尾目サンショウウオ科

石川県カテゴリー

地域個体群

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

邑知瀧地溝帯以北では生息地が限られており、個体数も少ない。

形態

成体の全長10～15cm、紫色を帯びた褐色の地に小さな黄色の斑点をもつものが多い。卵嚢はバナナの実状で、虹色光沢のある外皮をもつ。

国内分布

山陰、近畿、中部、関東地方。日本海側では新潟県西南部が北限。

県内分布

加賀地方と能登地方南部(宝達山、石動山)には広く分布する。邑知地溝帯以北では眉丈山(中能登町)、赤蔵山(七尾市)、輪島市西南部、穴水町西部、能登町南部で記録がある。

生態

産卵期は2月下旬～4月下旬で、溪流の石の下に卵嚢を産みつける。多くの幼生は9月末までに変態を終えて上陸する。成体は繁殖の時期以外は産卵場に隣接した林の林床で生活する。

生息地の条件

産卵場になっている溪流だけではなく周辺にある森林の環境が良好な状態で維持されること。幼生の移動を妨げないように溪流の連続性が確保されること。

生存の危機

山地溪流の砂防堰堤工事、溪流周辺の山林の荒廃、森林伐採、林道整備などによって絶滅のおそれがある。(A)

特記事項

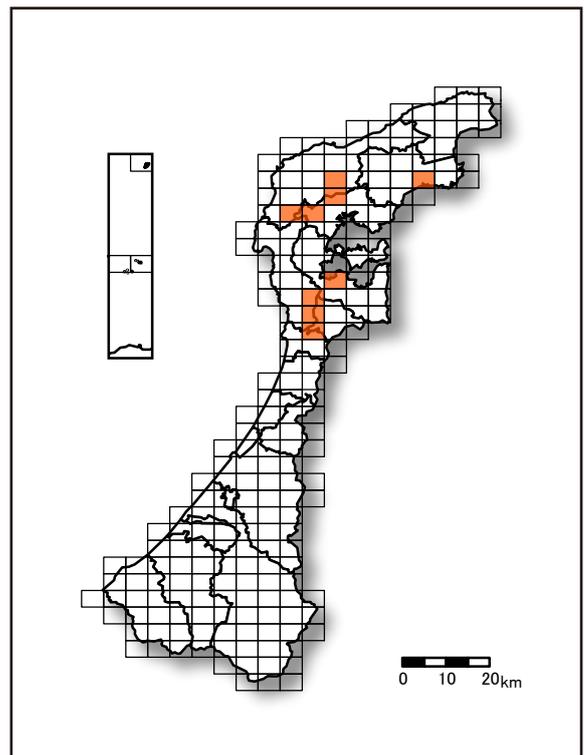
奥能登の生息地は緯度では本種の北限と思われる。遺伝化学的研究によれば、本州のヒダサンショウウオの個体群は大きく東部・中部・西部の3グループに分けられ、本県の個体群は中部グループに属する。

参考文献

環境省 2001. 生物多様性調査 動物分布調査報告書(両生類・爬虫類). p. 40. 環境省.
松井正文・見澤康充 1996. 日本動物大百科第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類. p. 18-19. 平凡社.
Matsui, M. et al 2000. Comp. Biochem. Physio. B 125:115-125.



写真提供者: 宮崎光二



県内の分布